

ヴォイドとネストを利用した新しい駅ビルの設計

高知工科大学 システム工学群 建築都市デザイン専攻

1210071 駒切 佑香

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景

1-1 ライフスタイルの変化

現在、インターネットの普及、外出自粛やテレワーク推進により、自宅周辺と会社周辺というこれまでの主な生活基盤のうち、自宅周辺に重心が傾いた。それに伴い、自宅周辺での買い物・消費が増え、自宅と会社をつなぐ通勤動線上での買い物は減少。また、外出機会をなるべく減らそうとする中で、計画的な買い物も増加。

これにより、「会社帰りにふと思い立って」「前を通りかかって衝動的に」といった非計画的な来館・消費が減少しているため駅だけでなく駅ビルの利用者も減少している。(図1)1)

そのため、モノ消費だけでなくコト消費を行える空間をつくる必要があると考える。コト消費を追加することで滞在時間が長くなり、モノ消費も増加する。

2-2 駅ビル内部の上下分断と画一的空間

駅ビル内のテナントは各階ごとに空間が分断されているため、お互いの活動も周囲の状況も認知できない画一的な空間が続いている。(図2)

駅ビルは多様な人々が集まる場であるのでこれは合理的であるが空間体験の場としては乏しい。

これより、コト消費を行える空間体験の場をつくるために、分断された空間を結びつけるヴォイドと不特定多数の人から干渉されない安心できる空間であるネストを利用した新しい空間づくりを行う必要があると考える。

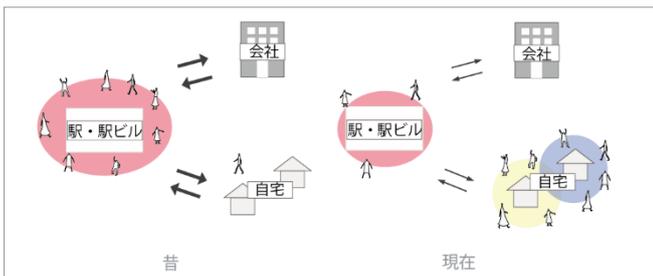


図1:人々の買い物の場の変化



図2:画一的空間(駅ビル内)



図3:公園側からみた駅ビル

2. 目的

本設計では、ヴォイドとネストを用いてモノ消費だけでなくコト消費の空間を持つ新しい空間づくりを行い、新しい駅ビルの提案を行うことを目的とする。

3. 対象敷地

対象とする駅ビルは福岡県福岡市中央区にある西鉄福岡天神駅ビルである。(図4)

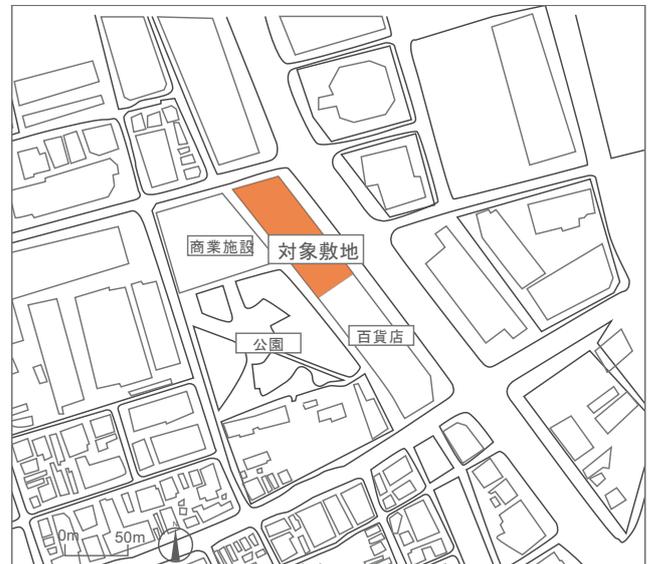


図4:対象敷地図

ここは、福岡市の中心地であり福岡市内や九州各地を結ぶ路線の交通結節点で、駅前には公園があり多くの来街者で賑わいをみせる地区である。

西鉄福岡天神駅は、百貨店の2階にプラットフォームがある高架駅で、駅ビル共に百貨店と一体で一つのビルのような外観である。(図3)

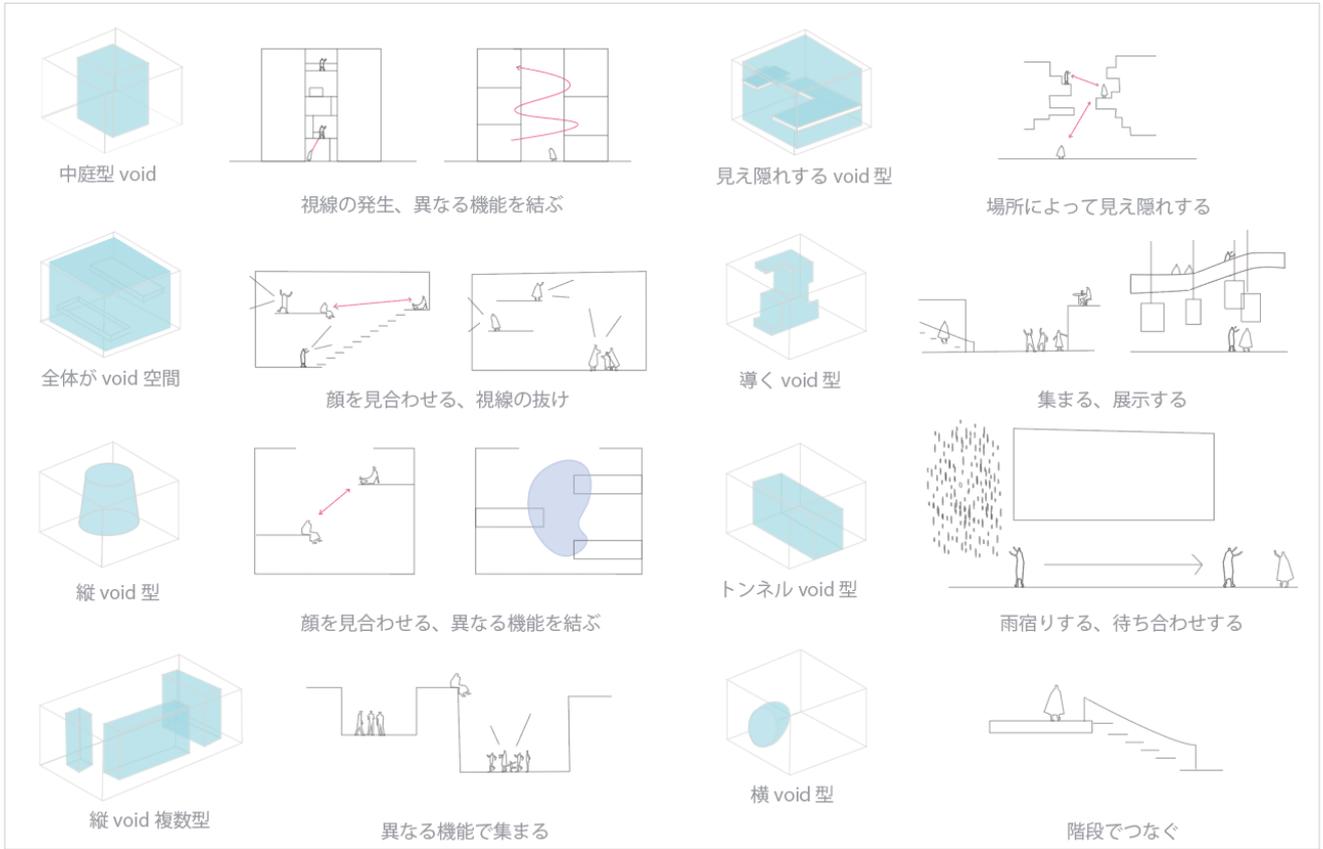


図 5: ヴォイドの類型化

4. ヴォイドの類型化

「a+u」の建築雑誌を用い、ヴォイド空間を持つ建築 98 作品を事例とした。ヴォイド空間の形状とそれに伴うアクティビティの分析を行った。(図 5) これより、ヴォイドは異なる空間を結びつける作用があることがわかった。

本来、静的な空間であるヴォイド空間に、人が加わることでアクティビティが生まれ動的な要素を付加する。このことからコト消費が生まれるようなヴォイドを複数配置し、駅ビル内部に空間体験の場をつくる。

5-1 ヴォイドによるつながり

駅ビル内の上下分断により互いの活動が認知されていなかったがヴォイドを用いることで他者との関りをもつ。(図 6)

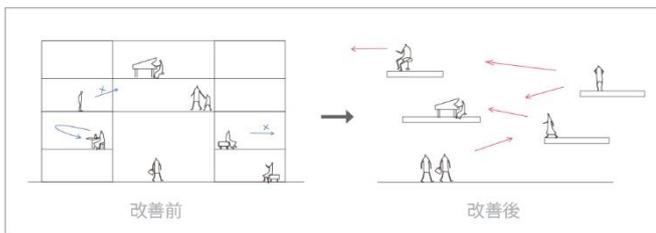


図 6: 上下分断の改善

5-2 点在する店舗

画一的に連続していた店舗を点在させ、駅周辺の特徴である路地裏に店舗が点在する空間を内部にもたらし。(図 7)

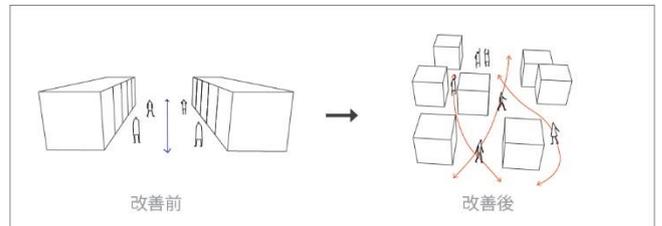


図 7: 画一的空間の改善

5-4 ネスト

ヴォイド空間だけでなく、ネストにより閉鎖的な空間も取り入れ多様な空間を内部にもたらせる。パブリックライフの眺望が可能で不特定多数の他者に干渉されない安心な空間とする。(図 8)

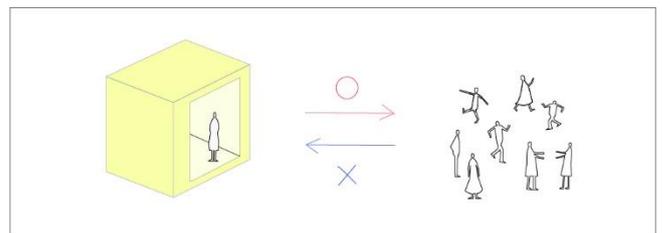


図 8: ネスト

6. 設計

6-1 観光案内所

まちのコンシェルジュ的役割をもつ空間。駅ビル内や周辺の地域情報を集める場とする。(図 9)

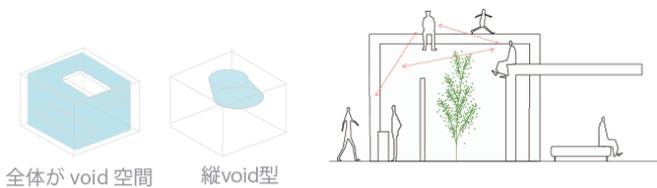


図 9 : 観光案内所

6-2 アイデア空間

駅ビル内に複数おき、コワーキングスペースなどにも利用。多彩な人と情報の出会いを促し、新しい価値を生み出す拠点として情報交換なども行える空間。そこでのアイデアをアイデア空間で実現できるような場所とする。(図 10)

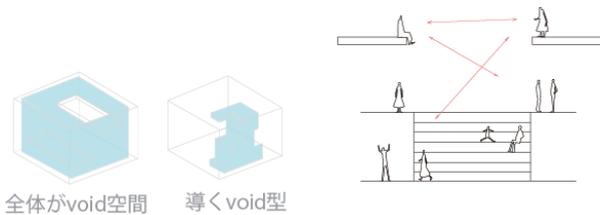
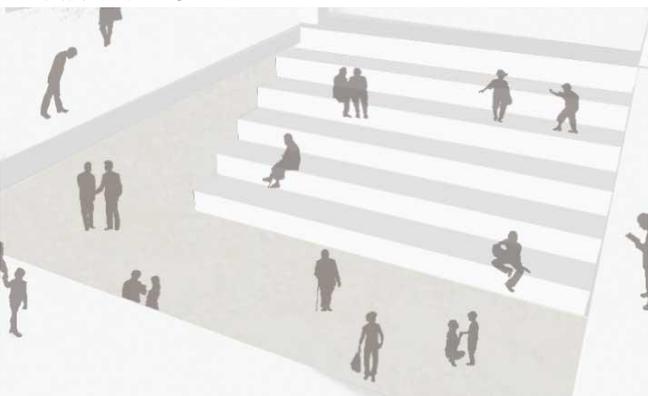


図 10 : アイデア空間

6-3 店舗とひとり空間

「見え隠れするヴォイド」として配置し、点在する店舗の間にひとり空間のネストを設けることで店舗への滞在時間が長くなりモノ消費へもつながる。

(図 11)

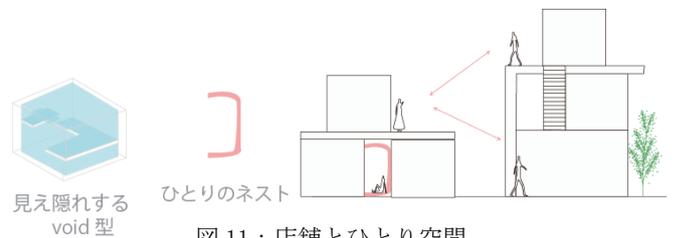
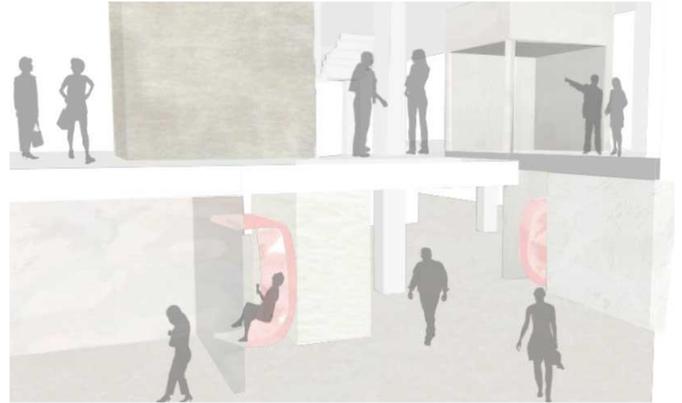


図 11 : 店舗とひとり空間

6-4 ミニオフィス

読書や作業、オフィスなど集中できる空間のため囲まれた空間をつくる。

公園側に開口を大きく開くことで人々の様子もわかる。(図 12)

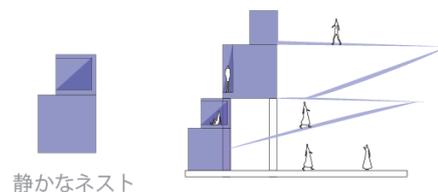
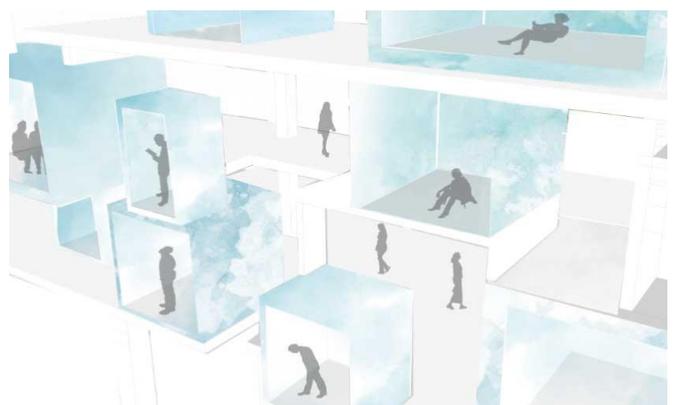


図 12 : ミニオフィス

6-5 アイデア空間

アイデア空間の近くに設けるネストとし賑わいが見える楽しさをもたらすため開口は多めとする。個のテリトリーはしっかりと保持する空間。(図 13)

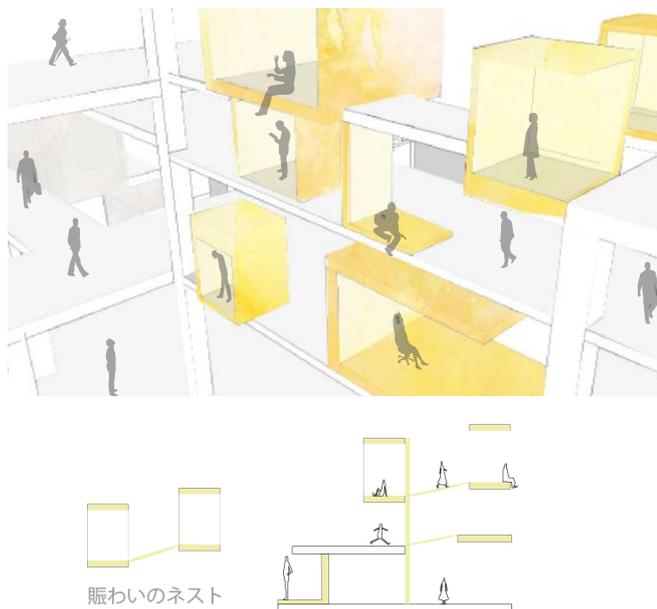


図 13 : アイデア空間(ネスト)

7. 参考文献

- 1) (※)出典：jeki ジェイアール東日本企画
「新型コロナウイルスを契機とした鉄道利用者の行動・意識に関する定量調査」 [EKISUMER_vol_45.pdf \(jeki.co.jp\)](#)
- 2) 新建築社 a+u 建築と都市 2000-2015

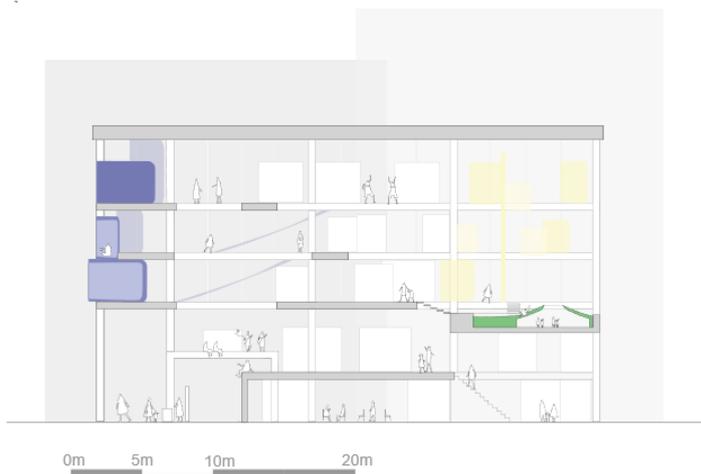


図 14 : 断面図



図 15 : 全体パース